

名古屋市図書館の

ボランティア向け読み聞かせ絵本リスト

小学校で、授業開始前の10分間（朝読書の時間）や、授業の合間の放課時間を利用して、絵本の読み聞かせ活動をされている方に、おすすめの絵本を紹介しています。およそ10分間で、1クラス20～30人向けに読み聞かせをすることを想定して選びました。ご参考にしていただければと思います。

[2015年3月現在]

【表の見方】

① 【対象】 ★	② 【書名】 【著者名】	③ 【出版社】 【出版年】
【絵本の表紙画像】	④ 【あらすじ】	
	⑤ 【絵本の特徴や読み聞かせのポイント】	
		【読み聞かせにかかる時間】 【お話の特徴】 【備考】

【表の見方】

①対象：★マークは聞き手の対象を表しています。

★：小学校低学年～、★★：小学校中学年～、★★★：小学校高学年～

②書名、著者名

③出版社、出版年

④本のあらすじ

⑤絵本の特徴や読み聞かせのポイント

・読み聞かせの参考になるよう、絵や文章の特徴や解説、読み聞かせする際に気を付けていることなど、図書館の専門職員である司書がコメントしています。

⑥読み聞かせにかかる時間 / お話の特徴 / 備考

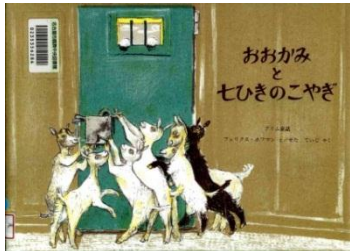
・読み聞かせにかかるおおよその時間を表示しています。聞き手の反応によって時間に幅がある場合は、「～」で表示しています。

・季節、昔話などお話に特徴があるものについては表記しています。

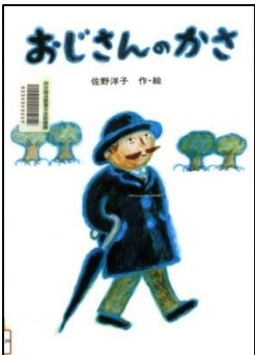
・備考欄に「大型絵本あり」と表記のあるものは「大型絵本」があります。ご活用ください。

★	あおくんときいろちゃん レオ・レオニ／作 藤田圭雄／訳	至光社 1989年
	あおくんは青色、きいろちゃんは黄色です。ふたりはとても仲良しで、かくれんぼをしたり、一緒に帰ったりします。ある日、あおくんときいろちゃんは会えたのが嬉しくて、くっついている内に、とうとう緑色になってしまいました。いっぱい遊んでお家に帰ると、パパとママは緑色をしているあおくん、きいろちゃんが分かりません。悲しくて泣いていると、涙が青い色と黄色に分かれ、元にふたりに戻ることができました。	4分
	青と黄が重なり、緑に変化する面白さがあります。あおくんもきいろちゃんも顔の表情はないですが、楽しい気持ち、悲しい気持ちが絵から表れています。	

★	うまかたやまんば おざわとしお／再話 赤羽末吉／画	福音館書店 1988年
	ひとりの馬方が魚を馬に積んで山道を歩いていると、山姥に襲われ魚も馬もばりばり食われてしまいます。必死で逃げる馬方は一軒家を見つけて隠れることにしますが、なんとそこは山姥の家でした。天井の梁に登ったところへ山姥が帰ってきます。火の神の振りをして山姥をだまし、馬方は山姥の甘酒やもちを食べてしまいます。からとの中で眠る山姥に熱湯をそそぎ入れ、とうとう山姥をやっつけたのでした。	7分
	日本の昔話です。山姥の家に着いてから絵本を縦向きにして読むところが5場面あり、そしてまた横向きにもどるので注意が必要です。	昔話

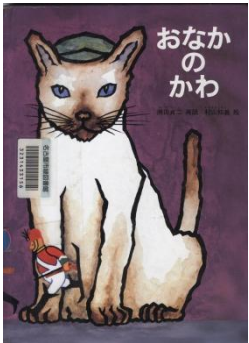
★	おおかみと七ひきのこやぎ グリム童話 フェリクス・ホフマン／え せたていじ／やく	福音館書店 1967年
	お母さんやぎが森に出かけると、やぎの家におおかみがやってきます。子やぎたちはいいつけを守って、おおかみを家に入れないようにしますが結局入られ、末の子やぎだけを残してみんな食べられてしまいます。お母さんやぎは末の子やぎから話を聞き、森で寝ているおおかみを見つけました。お母さんやぎは、おおかみのお腹から子やぎたちを助け出し、かわりに石をつめます。目を覚ましたおおかみは、お腹の石の重みで井戸に落ちて死んでしまいました。 背景の書き込んである部分と、白い部分の使い分けがうまく場面展開にいきています。躍動感のある挿絵です。大きめの横長の判型なので持ちづらいですが、しっかりと本を固定して読みましょう。	7分
		昔話

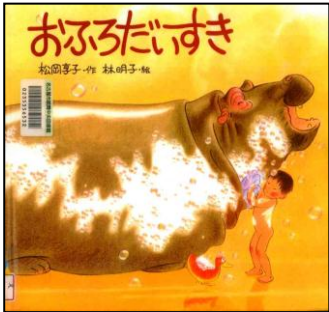
★	おおきなかぶ A. トルストイ／再話 内田莉莎子／訳 佐藤忠良／画	福音館書店 1966年
	おじいさんが、かぶを植えました。すると甘い、元気のよい、とてつもなく大きなかぶができました。おじいさんはかぶを抜こうとしますが、抜けません。そこでおじいさんは、おばあさんをよび、ふたりでかぶをひっぱりますが、抜けません。そこでおばあさんは、孫をよび、3人でひっぱりますが、やっぱり抜けません。犬、猫、ねずみが加わり、一緒に力を合わせてひっぱると、大きなかぶは、やっと抜けました。 子どもが親しみやすい、簡潔な文章で書かれています。「うんとこしょ どっこいしょ」の掛け声が心地よく、子どもたちも自然に声を合わせてきてくれるでしょう。	4分
		昔話
		大型絵本あり

★	おじさんのかさ 佐野洋子／作・絵	講談社 1992年
	立派な傘がご自慢のおじさん。でも、おじさんはけっして傘を開きません。なぜって、傘がぬれるからです。ところがある日、子どもたちが「あめがふったらポンポロロン あめがふったらピッチャンチャン。」と歌っているのを聞いたおじさんは、とうとう傘を開いてしまいます。すると、傘に雨があたって楽しい音がしたので、おじさんはうれしくて雨の中を歩き回ります。そして、立派な傘が立派にぬれたのを見てうっとりしました。 おじさんが傘を開いてしまうところは丁寧に読み、間をとって絵を見せると効果的です。♪あめがふったら ポンポロロン～はリズムカルに読みましょう。	6分
		雨の季節
		大型絵本あり

★	おだんごぱん ロシア民話 せたいいじ／やく わきたかず／え	福音館書店 1966年
	おじいさんは、おばあさんにおだんごぱんを焼いてもらいました。焼きあがったおだんごぱんは、窓のところで冷やされていましたが、寂しくなり窓から転がって表に出て行きました。おだんごぱんは、野原でうさぎ、おかみ、くまに会い、食べられそうになりますが、歌を聞かせて逃げ出します。しかし、最後に会ったきつねの言葉にだまされて、ぱくっと食べられてしまいました。 繰り返して出てくる文章によって話に引き込まれます。シンプルな線で描かれ遠目も程よくきき、温かみのある色合いが話の雰囲気合っています。歌は節をつけてリズムカルに読むことができます。	8分
		昔話

★	おちゃのじかんにとら ジュディス・カー／作 晴海耕平／訳	童話館 1994年
	大きなとらがお茶の時間にソフィーの家にやってきました。お腹をすかせたとらは、サンドイッチやケーキを全部とティーポットのお茶を全部たいらげてしまいます。それでも腹ペコのとらは、家にあった食べ物を全部、飲み物を全部口に入れると、お礼を言って帰っていきました。食べるものが何もなくなくなってしまったので、ソフィーとお母さんは帰ってきたお父さんと一緒にレストランでおいしい夕食を食べました。	
	とらが食べ物や飲み物を全てたいらげてしまう展開に、全部食べちゃって大丈夫かなというドキドキ感が出るように読んでみてください。	7分

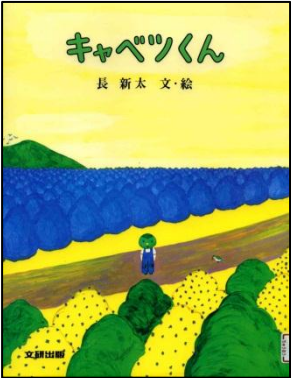
★	おなかのかわ 瀬田貞二／再話 村山知義／絵	福音館書店 1977年
	互いに、ごちそうし合う相談をしたねことおうむ。ところが、けちんぼのねこは自分ばかりたくさん食べた上、おうむまで食べてしまいます。それを見ていたおばあさんも、ごくんと丸のみ。道をやってきた王さまもお妃さまも、たくさんの象たちもぺろり。ところが飲み込んだかにか、ねこのお腹を切りさいたので、今まで飲み込んだものが全部、お腹から飛び出しました。ねこはお腹の皮を縫うのに、一日もかかりました。	
	絵の輪郭がはっきりしているので、遠目が効きます。繰り返しのセリフは、リズムよく読みたくなりますが、早くなりやすいので注意が必要です。	10分

★	お風呂だいすき 松岡享子／作 林明子／絵	福音館書店 1971年
	ぼくはお風呂が大好き。あひるのおもちゃのプッカと一緒に入ります。ぼくが体を洗っていると、お風呂の底からかめが出てきました。それからペンギンがすべりっこをしたり、オットセイがしゃぼん玉をふくらませたり、ぼくがかばの体を洗ってあげたり。最後にくじらが出てきて、みんなで数を数えながらお湯に浸かります。50まで数えた時、お母さんがお風呂場にやってきました。すると動物たちはお湯に潜って隠れてしまいました。	10分
	よく知られている動物たちが出てくるので、子どもたちは親しみを持ってきいてくれますが、長めのお話です。お話を聞き慣れた子におすすめです。	

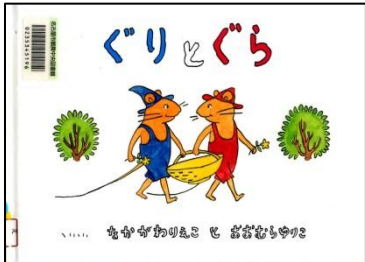
★	おまたせクッキー パット・ハッチンス／さく 乾侑美子／やく	偕成社 1987年
	お母さんがおやつにクッキーを焼きました。ビクトリアとサムがふたりで分けると6つずつです。そこへお隣のトムとハナが来て、一緒におやつを食べることになりました。クッキーはひとり3つずつです。その後もどんどんお客さんが増えて、とうとうひとり1つずつになってしまいました。そこへピンポン！と誰かがやって来ます。それはおばあちゃんでした。たくさんのクッキーを焼いて持って来てくれたのです。	5分
	数が数えられる子たちに読み聞かせをおすすめします。「次はどうなるのかな」とハラハラドキドキして面白いです。	

★	かいじゅうたちのいるところ モーリス・センダック／さく じんぐうてるお／やく	富山房 1987年
	おおかみのぬいぐるみを着て大暴れしたマックスは、怒ったおかあさんに夕飯抜きで寝室に放り込まれる。すると寝室が森や野原になり、波が打ち寄せ、マックスは船に乗りかいじゅうたちのいるところへ行く。マックスはかいじゅうたちの王様になり、かいじゅうおどりを踊った。優しいだれかさんのところへ帰りたくなったマックスは王様をやめ、また船に乗り込む。いつの間にか元の寝室に戻っていてそこには温かな夕飯が置いてあった。 見開き3ページにおよぶかいじゅうの踊りのシーンには文章がありませんが、絵を見る時間をたっぷりととってあげましょう。	7分

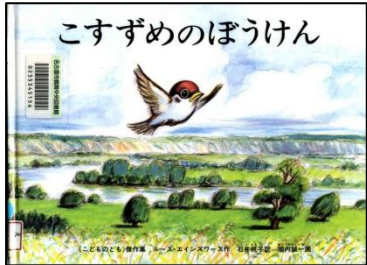
★	かちかちやま おざわとしお／再話 赤羽末吉／画	福音館書店 1988年
	爺様は悪さをする狸を捕まえました。ところが、爺様の留守中に、狸は婆様を殺してしまいます。婆様に化けた狸は、婆様で狸汁をこしらえ、だまして爺様に食べさせ山へ逃げていきました。爺様が悔しくて泣いていると、兎がそのかたき討ちを約束します。兎は狸をうまくだまして、火傷を負わせたり、そこに唐辛子を塗り込んだりしました。その度に狸は怒りますが、兎はうまくごまかし、とうとう狸を土の舟で川に沈めてしまいます。 「かちかちいうのは なんのおとかな」に始まるうさぎとたぬきのやり取りは、リズムカルでとても印象的です。よく練習して、ことばの面白さを伝えてください。	8分
		昔話

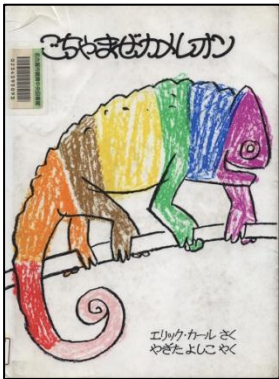
★	キャベツくん 長新太／文・絵	文研出版 1980年
	はらぺこのブタヤマさんがキャベツくんを食べようとすると、キャベツくんは「ぼくをたべると、キャベツになるよ!」と言いました。空には、鼻がキャベツになったブタヤマさんが浮かんでいます。それを見たブタヤマさんは驚きました。それからヘビやタヌキやカエルなど他の動物がキャベツくんを食べたらどうなるのと、次々に尋ねました。そのたびに体の一部がキャベツになった動物が空に浮かび、ブタヤマさんはびっくりします。	7分
	「こうなる!」と「ブキャ!」の繰り返しと、めくるたびに現れる動物の姿が笑いを誘います。大型絵本はページがめくりにくいので、ページ送りに注意してください。	
		大型絵本あり

★	きょだいなきょだいな 長谷川摂子／作 降矢なな／絵	福音館書店 1994年
	広いのっばらのどまん中に、きょだいなピアノがおいてあります。子どもが100人やってきて、ピアノの上でおにごっこを始めます。広いのっばらにはほかにも、きょだいなせつけん、きょだいな電話、きょだいなトイレットペーパーなどがあって、100人の子どもたちがやってきては思い思いに遊びます。最後にきょだいな扇風機が子どもたちを飛ばしてしまいましたが、みんな家族のところへ無事に帰っていきました。	5分
	ページいっぱいに巨大なものが描かれており、迫力があります。最後の絵は文章がありませんが、じっくり見せてあげましょう。	
		大型絵本あり

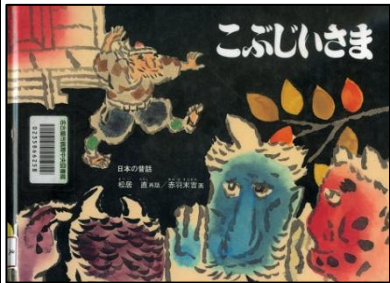
★	ぐりとぐら 中川李枝子／さく 大村百合子／え	福音館書店 1967年
	のねずみのぐりとぐらは、森で大きなたまごを見つけました。家に持って帰ろうとしますが、たまごが大きすぎて運べません。ぐりとぐらは、その場にかまどを造り、家から持ってきた道具や材料を使って大好きな料理を始めました。カステラの焼けるいいにおいがしてくると、森中の動物たちが集まってきました。黄色くてふんわりとしたカステラができ、ぐりとぐらは動物たちと仲良く分けて食べました。	8分
	絵の背景に余計なものが描きこまれていないので、離れていても絵がよく見えます。ぐりとぐらの歌に節をつけてリズムカルに読むこともできます。	
		大型絵本あり

★	くわすにようぼう 稲田和子／再話 赤羽末吉／画	福音館書店 1977年
	あるよくばりの男が、よく働いて飯を食わない女房がほしいと思っていると、そのとおりの娘がやって来た。ある日、蔵の米がごっそり減っているのに気づいた男が見張っていると、女房が大きな釜で米を炊き、頭にあいた大きな口で握り飯を食べ始めた。驚いて女房を追い出そうとすると、女房は鬼婆になり、男を桶に入れ奥山に連れて行こうとする。逃げ出した男は鬼婆に追われるが、しょうぶとよもぎが鬼婆を退治し、男を守ってくれた。	8分
	ぴたぴた、ぴつつ、など多くの印象的な擬音は丁寧に読んでください。子どもは怖がって聞けるので、「おにばばしんだ」の言葉で安心させて終わるようにします。	昔話

★	こすずめのぼうけん ルース・エインズワース／さく 石井桃子／やく 堀内誠一／え	福音館書店 1977年
	一羽のこすずめにお母さんすずめが飛び方を教えました。飛べるようになったこすずめは遠くへ飛んでいきますが、しだいに疲れてきて鳥の巣で休むことにします。でもそれはカラスや山鳩、フクロウなどの巣で、自分たちと同じ鳴き声で鳴けるか聞かれます。その度にこすずめは「ちゅんちゅん」としか鳴けず、仲間じゃないからと巣に入れてもらえません。疲れて歩いていたこすずめをお母さんすずめが迎えに来て、無事巣に戻りました。	7分
	こすずめがいろいろな鳥の巣を巡りますが、繰り返しの多い文章なので聞いている側にも馴染みやすく、読みやすいです。おはなしはストーリーテリングにも使えます。	
		大型絵本あり

★	ごちゃまぜカメレオン エリック・カール／さく やぎたよしこ／やく	ほるぷ出版 1978年
	カメレオンが動物園をのぞくと、美しい動物たちがたくさん見える。ちっぽけな自分をつまらなく思ったカメレオンが、ホッキョクグマのようになりたいと願ったとたん、体が大きく白くなる。フラミンゴのようにと願うと、さらに翼と長い脚が生え、キリンのようにと願えば、今度は首が長く伸びる。10もの動物がごちゃまぜになったカメレオンは、ハエをうまく捕まえられない。いつもの姿になればと思ったとたん、元の姿に戻る。	8分
	冒頭は神妙に聞いていますが、ごちゃまぜになればなるほど、子どもは歓声をあげ、大喜びします。元の姿に戻ってやれやれと満足して終わります。	

★	コッケモーモー！ ジュリエット・ダラス＝コンテ／文 アリソン・バートレット／絵 たなかあきこ／訳	徳間書店 2001年
	ある朝、おんどりは鳴き方を忘れてしまいました。「コッケモーモー！」「コッケガーガー！」と鳴いてしまうのです。「ちゃんと泣いてよね」とめんどりたちに責められて、おんどりは悲しくなりました。その晩、めんどり小屋をねらっているきつねに気付いたおんどりがメチャクチャに鳴くと、きつねは逃げていきました。みんなにほめられたおんどりは嬉しくて、「コッケコッコー！」と鳴くことを思い出しました。	5分
	小さな子も大きな子も、一緒に聞いている大人たちもきっと笑ってしまいます。声を出して読むことによって、より一層楽しさが増す絵本です。	

★	こぶじいさま 松居直／再話 赤羽末吉／画	福音館書店 1980年
	額にこぶのあるじいさまが山のお堂に泊まっていると、鬼が大勢やってきて、お堂を囲んで歌いながら踊り始める。面白くなったじいさまは、鬼の後から一緒に歌い踊り出す。じいさまの歌や踊りを喜んだ鬼は「明日の晩も来い。それまでこぶを預かる」とこぶを取ってしまう。それを聞いた隣のこぶじいさまも、こぶを取ってもらおうと山へ行くと、うまく歌い踊れず鬼を怒らせる。昨晚のこぶを額につけられ、こぶが二つになってしまう。	7分
	鬼の登場は怖いですが、歌い踊る様子はユーモラスです。挿入歌は無理にメロディをつけなくても、明瞭に発音して言葉のリズムと響きを楽しんでください。	昔話

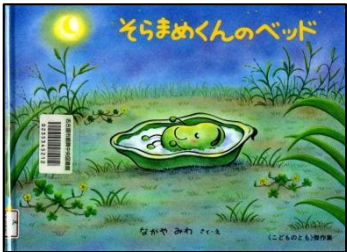
★	三びきのこぶた イギリス昔話 瀬田貞二／訳 山田三郎／画	福音館書店 1967年
	三匹のこぶたが家を建てました。一匹はわらで、もう一匹は木の枝で建てたのですが、おおかみに吹き飛ばされ食べられてしまいます。最後のこぶたはレンガで建てたので、おおかみでも吹き飛ばせません。おおかみは何とかしてこぶたを外に出そうと、いいカブ畑やリンゴの木の在り処を教えますが、こぶたは騙されません。怒ったおおかみは煙突からレンガの家に入ろうとしますが、大なべの湯の中に落ちて逆に食べられてしまいました。	9分
	最初の二匹のこぶたがおおかみに食べられてしまう所、こぶたがおおかみを出し抜く展開や、おおかみを食べてしまう所は意外と知られていません。	昔話

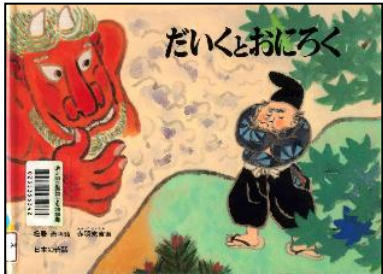
★	三びきのやぎのがらがらどん アスビョルンセンとモーの北欧民話 マーシャ・ブラウン／え せたていじ／やく	福音館書店 1965年
	大きさの違う三びきのやぎがいました。名前はみんな「がらがらどん」。山の草場に向かう途中、橋の下に住む恐ろしいトロルと出会いました。初めにやってきた小さいやぎのがらがらどんは、次に自分より大きいやぎがやってくるからと言って、橋を渡っていきました。二番目のがらがらどんも同じように言って橋を渡りきりました。三番目の大きいやぎのがらがらどんは、トロルとたたかい、立派なつのとひづめでトロルをやっつけました。	8分
	橋を渡っていく音の違いと、やぎの声の大きさや調子がだんだん力強くなっていくところを意識して読みましょう。	昔話

★	しんせつなともだち 方軼羣／作 君島久子／訳 村山知義／画	福音館書店 1987年
	雪の日に食べ物を探しに行ったこうさぎは、外でかぶをふたつ見つけました。ひとつは自分で食べましたが、もうひとつはろばにあげることにしました。でもろばは家にいなかったの、かぶをそっとおいて帰ってきます。一方食べ物を探しに行っていたろばは、さつまいもを見つけて帰ってきますが、家にかぶが置いてあります。そこでろばもかぶを友だちにあげに行きました。こうして巡り巡って、かぶがこうさぎのところに帰ってきます。 余計な書き込みがない分、絵は遠くからも見やすく、繰り返し言うセリフが多いので耳にもなじみやすいです。	4分
		冬

★	すてきな三にんぐみ トミー・アンゲラー／さく いまえよしとも／やく	偕成社 1977年
	黒マントに黒い帽子の三人ぐみは、こわーい泥棒で、馬車をおそっては宝をうばい、隠れ家に貯め込んでいた。ある夜のこ、おそった馬車から連れてきたみなし子に「これ、どうするの?」と聞かれ、考え込んだ。そして三人ぐみは、さびしい捨て子やみなし子をいっぱい集め、一緒に暮らせるお城を買った。子どもたちは大きくなると城の近くに村をつくり、すてきな三人ぐみを忘れないために、三人にそっくりの塔を建てた。 前半は不気味な印象が強いが、最後まで読めばハッピーエンドとなります。基本的には淡々と読みます。後半を少し明るめに読んでもいいでしょう。	8分
		大型絵本あり

★	せんたくかあちゃん さとうわきこ／さく・え	福音館書店 1982年
	洗濯の大好きなかあちゃんは、家中の洗い物、子どもや犬、猫などをまとめて洗って干していた。そこに雷様がおちてきたので、たらいにほうりこんで洗濯すると、雷様の目鼻が消えてしまう。そこで子どもたちがクレヨンでいい男の顔をかいてあげると、雷様は喜んで空に帰って行った。次の日、洗濯していい男にしてほしいという薄汚れた雷様がいっぱいふってくる。洗濯かあちゃんは「よしきた。まかしときい」と、張り切るのだった。	7分
		夏
		大型絵本あり

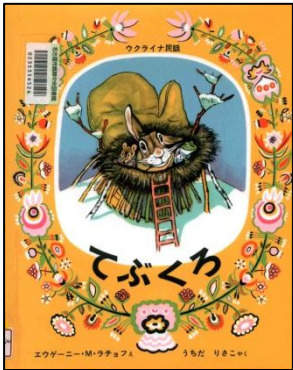
★	そらまめくんのベッド なかやみわ／さく・え	福音館書店 1999年
	そらまめくんの宝物は、ふわふわで柔らかいベッド。友達のえだまめくんやピーナッツくんらに頼まれても、ベッドを使わせてあげません。ところがある日、そらまめくんのベッドがなくなりました。皆は自分のベッドを貸そうとしますが、サイズが合いません。何日も探していると、うずらが自分のベッドで卵を温めているのを見つけました。そらまめくんは、ひなになるまで貸すことにしました。ベッドが戻るとそらまめくんは、皆を自分のベッドに招待しました。	8分
		春
		大型絵本あり

★	だいくとおにろく	福音館書店 1962年
松居直／再話 赤羽末吉／画		
	大工が流れの速い川に橋を架けようと、様子を見ていました。すると、川の中から大きな鬼が現れて大工の目玉と引き換えに橋を架けてやると言いました。あっという間に橋が完成し、鬼は目玉をよこせと迫ります。大工が待ってくれと言うと、鬼は自分の名前を当てたら許してやると言いました。大工が山の中を逃げていると、鬼の名前が入った子守唄が聞こえたので、鬼の名前を当てることができ、鬼は消えていなくなっていました。	6分
		昔話

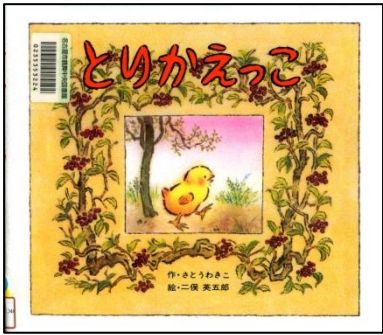
★	ちゃんと食べなさい	小峰書店 2002年
ケス・グレイ／文 ニック・シャラット／絵 よしかみきょうた／訳		
	デイジーは豆が大嫌い。ごはんの時間、ママは「ちゃんと食べなさい」と言い聞かせます。「おまめを食べたら〇〇してあげる」という提案が、だんだんとエスカレートしても「おまめ、だいきらい」と食べようとしないデイジー。逆に、デイジーは「ママが芽キャベツを食べたら、おまめを食べてあげる」と提案。実は、ママは芽キャベツが大嫌いなのでした。最後は、2人とも大好きなアイスクリームを食べておしまい。	7分

★	ちょろりんのすてきなセーター 降矢なな／さく・え	福音館書店 1993年
	ちょろりんは寒がりやのとかげの子。大通りの洋品店で、春の原っぱ色のセーターを見つけ、欲しくてたまらないが買ってもらえない。あきらめきれず、じいちゃんに相談に行き、ランプ作りの仕事を一晚手伝わせてもらうことになった。もらったお駄賃と小遣いを合わせて、勇んで買いに行くちょろりんだが、「セーターはへび用だよ」と言われ泣き出してしまう。店のおばさんはちょろりんのため、特別にセーターを編みなおしてくれた。	10分 秋・冬
	ちょろりんが初めてセーターを着る場面は、絵に対してセリフが一言しかありません。しかし、一番インパクトのある場面なので絵をしっかりと見せるようにしましょう。文章が書かれていない最後のページまでしっかりと見せるようにしましょう。	

★	ティッチ パット・ハッチンス／さく・え いしいももこ／訳	福音館書店 1975年
	三人きょうだいの末っ子ティッチは、小さな男の子。兄さんや姉さんは大きな自転車を持っていたが、ティッチが持っていたのは小さな三輪車。兄さんたちの風は家や木よりも高くあがるが、ティッチのかざぐるまは手の中で回るだけ。兄さんは大きなシャベルを、姉さんは大きな植木鉢を持っていたが、ティッチが持っていたのはとても小さな種。でもそれは芽を出し、ぐんぐんのびて、兄さんたちの背よりも大きく育つ。	4分
	ティッチの持ちものは、だんだん小さくなります。小さな種がぐんぐん大きくなる誇らしさを伝えましょう。どんでん返しの心理はあまり幼いとわかりづらいでしょう。	

★	てぶくろ ウクライナ民話 エウゲーニー・M. ラチョフ／え うちだりさこ／やく	福音館書店 1965年
	おじいさんが森で落とした片方の手袋に、ねずみ、かえる、うさぎが次々に入り込んで、手袋の中で住み始めます。さらに、きつね、おおかみ、いのししと入ってくる動物はだんだん大きくなり、最後は熊まで入ります。手袋がはちきれそうになった時、おじいさんが犬と一緒に戻ってきました。犬に吠えられて、手袋の中の動物たちはいっせいに手袋から逃げ出しました。そして、おじいさんは手袋を拾いました。	4分
	絵本にある程度の大きさもあり、見開きで1場面なので絵をしっかりと見せると読みやすいです。手袋がだんだん家らしくなっていくのが楽しいです。	昔話・冬

★	どうぞのいす 香山美子／作 柿本幸造／絵	ひさかたチャイルド 1981年
	うさぎが小さな椅子を作り、「どうぞのいす」と立札をそえて木の下に置きました。ろばがやって来て、どんぐりの籠を椅子に置き、昼寝を始めます。そこへ熊が来て「どうぞならば」とどんぐりを平らげ、「あとのひとにおきのどく」と蜂蜜を置いていきました。次々に訪れる動物たちは籠の中身を食べては別のものを置いていき、最後にりすが栗を入れていきます。目を覚ましたろばは「どんぐりって、くりのあかちゃんだったかしら」と言うのでした。	5分
	「あとのひとにおきのどく」は、「たべてしまいました」から少し間を置くと、地の文章ではないことがはっきりして、動物たちのせりふらしく聞こえます。	秋
		大型絵本あり

★	とりかえっこ さとうわきこ／作 二俣英五郎／絵	ポプラ社 1978年
	遊びにでかけたひよこが、途中で出会ったねずみ、ぶた、かえる、いぬと次々に鳴き声をとりにかえっ こしていきます。「ぴよ」から「ちゅう」「ぶう」「けろ」「わん」と、鳴き声はどんどん変わっていきま す。そして、ねこに出くわしたところで、ひよこが言ったのは「うー、わんわん」。おどろいたねこは 逃げ出してしまう。運よく命拾いをしたひよこですが、最後にとりかえっこしたのはかめの声。無 言になってしまいました。	3分
	鳴き声をとりにかえる場面で、どちらの動物がどの鳴き声を言っているのかわかりづ らいので、最初だけ鳴いている動物を指でさしてもいいでしょう。	

★	どろんこハリー ジーン・ジオン／ぶん マーガレット・プロイ・グレアム／え わたなべしげお／やく	福音館書店 1964年
	黒いぶちで白い犬のハリーは、お風呂が大嫌い。ある日、お風呂にお湯を入れる音がしたので、ハリ ーはブラシを庭に埋めて外に逃げ出しました。いろんなところで遊んで真っ黒になったハリーは、白い ぶちで黒い犬になってしまい、家族にも気づいてもらえません。がっかりしたハリーは埋めたブラシを くわえてお風呂に駆け込みました。洗ってもらいきれいになると、ハリーだと家族にも分かってもらい、 とても素敵な気持ちになりました。	6分
	絵も話の展開もシンプルでわかりやすいです。テンポよく読みます。様子がわかりに くいと感じたら、指で指し示しながら読むといいでしょう。文章が始まるまでの絵が肝 心なので、よく見せます。	

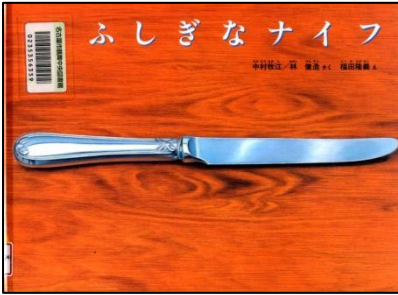
★	なにをたべたかわかる？ 長新太／作	絵本館 2003年
	ねこが釣りをしていると、大きな魚が釣れました。釣った魚をかかえたねこの後ろから、次々に動物がやってきますが、みんな魚に食べられてしまいます。そのたびに魚は大きくなり、しまいにはねこは魚に押しつぶされてしまいます。魚がどうしてこんなに大きくなったのか、何が何だかさっぱりわからないねこですが、突然「いただきます」と言って魚を全部食べてしまいました。さて、ねこは全部で何を食べたことになるのでしょうか？	5分
	奇想天外な内容と一緒に驚きながら読むと良いでしょう。最後の問いかけには色々と反応が返ってきますが、うまく受け止めてあげるように心がけましょう。	

★	ねえ、どれがいい？ ジョン・バーニング／さく まつかわまゆみ／やく	評論社 2010年
	「もしもだよ、君んちの まわりが変わるとしたら、洪水と、大雪と、ジャングルと、ねえ、どれがいい？」に始まり、「食べなきゃならないとしたら？ くものシチュー かたつむりのだんご 虫のおかゆ、へびのジュース」と、どのページでも究極の選択をせまられます。「お城で食事、気球で朝ごはん、川でおやつ」なんていう素敵な選択もあります。読み手と聞き手がコミュニケーションを取りながら読む、参加型の絵本です。	4分～
	聞き手との受け答えによって所要時間はかなり変わります。盛り上がりすぎて收拾がつかなくなることがあるので注意が必要です。選択肢を読んだ後で、順に手を挙げてもらうのもひとつの方法です。	
		初版 1983 年

★	はちうえはぼくにまかせて ジーン・ジオン/さく マーガレット・ブロイ・グレアム/え 森比左志/やく	ペンギン社 1981年
	トミーの家はお父さんが仕事で忙しいので、夏休みはどこにも出かけません。トミーは夏休みに、近所の人から鉢植えを預かるというアルバイトを始めました。家中が鉢植えだらけになり、家の中はまるでジャングルのように。お父さんは不機嫌になりますが、トミーは本で調べたりして、きちんと世話を続けます。夏休みが終わるころ、近所の人々は元気な鉢植えを受け取って大喜び。鉢植えがすっかりなくなり、トミーの一家も夏休みの旅行へでかけます。 標題紙の部分から物語が始まっていますので、聞き手がきちんと絵を見られるように意識しながらページをめくってください。	7分
		夏

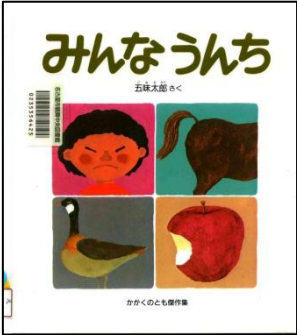
★	はらぺこあおむし エリック・カール/さく もりひさし/やく	偕成社 1976年
	葉っぱの上にあった小さなたまごから、ちっぽけなあおむしがうまれました。あおむしはおなかがいっぱい。月曜日はりんごをひとつ、火曜日はなしをふたつ、水曜日はすももをみつつ食べました。まだ続き、土曜日はチョコレートケーキ、アイスクリーム、ピクルスなど、あおむしはどんどん食べます。おなかをこわして泣いたこともあります。大きくなってさなぎになり、やがてきれいなちょうちょになります。 シンプルなストーリーでわかりやすく、鮮やかな色彩が美しい。ページの大きさが異なっていたり、穴があいていたりするしかけ絵本です。月曜日のりんごの場面は、前のページにつられて開いてしまいやすいので、気をつけてください。	4分
		大型絵本あり

★	ピッツアぼうや ウィリアム・スタイグ／作 木坂涼／訳	らんか社 2014年
	雨が降り外で友だちと遊べなくなったので、ピートはご機嫌ななめでした。そんなピートを見て、お父さんは、ピートでピッツアをつくったら楽しくなるかもしれないと思いました。さっそくピートをピッツアにみたてて、こねたり、ひっぱったりし始めます。トマトやチーズのかわりに、ボードゲームのコマや紙切れもちりばめました。こうして親子で楽しく遊ぶうち、雨はやみ、ピートのご機嫌もすっかり良くなりました。	4分
	字のないページもしっかりと見せるようにします。本文中の（ ）の中のことは、少し言い分けると良いでしょう。	
		初版2000年 セーラー出版

★	ふしぎなナイフ 中村牧江／さく 林健造／さく 福田隆義／え	福音館書店 1997年
	見開きいっぱい一本のナイフが描かれています。一見普通のナイフに見えますが、ページをめくっていくと、硬いはずのナイフがありえない形にどんどん変わっていきます。「ふしぎなナイフがまがる」という文には、ぐにゃっと曲がったナイフの絵が、「とける」では、まるで氷でできたナイフのように、「ほどける」では毛糸のようにナイフがほどけている絵が描かれています。リアルな絵だからこそ楽しめる絵本です。	3分
	たっぷりと間を取って読んでください。プログラムの最初や、長い絵本と組み合わせると息抜きの使うこともできます。	

★	ベーコンわすれちゃだめよ！ パット・ハッチンス／さく 渡辺茂男／やく	偕成社 1977年
	男の子が母親からいくつかおつかいを頼まれました。とくに「ベーコンわすれちゃだめよ。」と念押しされます。男の子は忘れないように、みちみち頭の中で頼まれた品物を確認しながら行きます。ところがベーコンに注意を払いすぎ、他の品物が、行く途中で目にしたものにどんどん変わっていってしまいます。最後にはそれらは正しく思い出すことができ、ちゃんと買い物をして帰るのですが、一番注意していたベーコンを買い忘れてしまうのでした。	5分
	歩きながら何が男の子の目に入るのか、ほら今度は何がかわっちゃうの？と楽しみながら読み進んでいきます。	
★	まあちゃんのながいかみ たかどのほうこ／さく	福音館書店 1995年
	短いおかっぱのまあちゃんは、長い髪が自慢の友だちのみいちゃんとはあちゃんに、自分はもっとずっと伸ばすという。橋の上からおさげをたらして魚がつれるくらい、左右のおさげを木に結べば家中の洗濯物を干せるくらい長くなる。シャンプーすれば雲までとどくソフトクリームのように、パーマにすれば森になって、小鳥やりすや虫たちが集まる。まあちゃんの話に、みいちゃんもはあちゃんも、とってもいいとうっとりする。	6分
	まあちゃんの空想がおおらかで楽しく、男の子にも喜ばれます。たて開きになる画面があるので、めくるときに注意し、もたつかないようにしましょう。	

★	まどからおくりもの 五味太郎／作・絵	偕成社 1983年
	あわてもののサンタさんは、窓から見える顔や模様や形を見て、誰の家かを早とちりしてはプレゼントをおいていく。ネコだと思ったのはふた、しまうまだと思ったのは3羽の鳥。留守だからプレゼントは不要と思ったのは窓より大きな熊のお腹。こわそうなワニだと思ったのはたくさんのウサギ、双子の兄弟だと思ったら片方は風船。次の日プレゼントをみつけた皆は、びっくりしながらも大喜び。	5分
	しかけの穴から見えるものとページをめくったときの違いが楽しい絵本です。字が少ないので、子どもが想像するのを待ってからゆっくりめくるとよいでしょう。	クリスマス
		大型絵本あり

★	みんなうんち 五味太郎／さく	福音館書店 1981年
	生きものはみんなうんちをする。そしてうんちの形や色、においは動物によってそれぞれ。大きいうんち、小さいうんち、止まってするうんち、歩きながらするうんち。いろんなところでするうんち、決まったところでするうんち。したままほっとかれるうんち、ちゃんと後始末されるうんち。水辺や水の中でするうんち、水に流されるうんち。生きものは食べるから、みんなうんちをするんだね。	5分
	照れずに堂々と「うんち」といいます。最後の「いきものは たべるから みんな うんちをするんだね」は少し強調するとよいです。	
		大型絵本あり

★	めっきらもっきらどおんどん 長谷川摂子／作 ふりやなな／画	福音館書店 1990年
	かんたは遊び相手をさがして神社へやってきた。でも誰もいないので、しゃくにさわってめちゃくちゃの歌をうたった。すると穴から奇妙な声がしてきたので、のぞいてみると吸い込まれてしまう。落ちたところは夜の山。そこへ「あそぼう」とへんてこりんな3人組がやってきた。かんたは3人組と珍しい遊びをして楽しく過ごすが、お母さんが恋しくなって「おかあさん」と叫んだとたん、もといた神社に戻っていた。 かんたのうたう歌が楽しいです。節をつけてリズムカルに読むと子どもたちも喜びます。途中で絵本を縦に向けて読む場面があります。	8分
		夏
		大型絵本あり

★	もっとおおきなたいほうを 二見正直／作	福音館書店 2009年
	立派な大砲を持っている王様は、大砲を打ちたくてたまりません。ある日、川で大切な魚を捕まえているキツネに怒った王様は、大砲を打ちました。一度は逃げたキツネですが、もっと大きな大砲をもってきます。王様とキツネは、大砲の大きさや数や形を競い合いました。ところが、キツネの大砲が枯葉であることが分かったと、王様は残された沢山の砲を半分に割ってお風呂にして、もう大砲を打ちたいとは思わなくなりました。 大砲が大きくなっていく様子に子どもたちは喜びます。絵が細かく、大人数の時は見えにくいかもしれません。大砲の弾の放物線を持ち手で隠してしまわないようにしましょう。	7分

★	ももたろう 松居直／文 赤羽末吉／画	福音館書店 1965年
	おばあさんが川でひろってきた桃から生まれた、ももたろう。力持ちで賢い子に育ったももたろうは、ある日からすの歌で鬼の悪さを知ります。心配するおじいさんとおばあさんを説得し、日本一のきびだんごをどっさり持って、鬼退治に出かけました。おともに犬と猿ときじを連れて、おにがしまへ。鬼どもを片っぱしからやっつけてうちに帰ると、鬼に返してもらったおひめさまをお嫁にもらって、幸せに暮らしました。	10分
	登場人物は多いのですが、声色を使わず自然に読んでください。ももたろうと犬、猿、きじが出会うときの調子のよいやりとりが、三度繰り返されますが、子どもたちはこの繰り返しを楽しんで聞きます。	

★	やさいのおなか きうちかつ／さく・え	福音館書店 1997年
	ねぎ、トマト、きゃべつ、きゅうり、身近にあるいろいろな野菜を切ってみると、その断面はどんな形になっているでしょう。白黒の断面図を見せて、これなあに？と問いかける絵本です。子どもたちとの対話を楽しみながら読みます。白黒の断面図の次のページには、カラーの断面図と、切っていないまるごとの野菜と切った野菜の絵がついています。	3分～
	白黒の断面図は案外わかりにくいので、低学年で答えられないときは、カラーの断面図のページを見せるとヒントになります。子どもとの受け答え次第で所要時間はかなりかわります。姉妹編に「やさいのせなか」もあります。	

★	よかったねネッドくん レミー・シャーリップ／さく やぎたよしこ／訳	偕成社 1997年
	ある日ネッドくんの手紙がきた。「びっくりパーティーにいらっしやい。」良かったね。でも大変！パーティーは遠いフロリダでやるんだって。でも良かった！友達が飛行機を貸してくれて。でも大変！飛行機が途中で爆発。でも良かった！飛行機にパラシュートがあって。…と、ネッドくん「大変！」なことと「良かった！」ことが交互に起こりハラハラドキドキ。最後はびっくりパーティーの会場に辿り着いて一件落着。 「でも、大変！」の場面でパッとページをめくり、少し早いテンポで読み、「よかった！」の場面では少しゆっくりめに読むと良いでしょう。	5分
		誕生日
		大型絵本あり

★	わゴムはどのくらいのびるかしら？ マイク・サーラー／ぶん ジェリー・ジョイナー／え きしだえりこ／やく	ほるぷ出版 2000年
	ぼうやは、わゴムがどのくらいのびるのか、ためしてみることになりました。そこで、わゴムのはしをベッドのわくにひっかけて、部屋を出て、自転車に乗り、バスに乗って、どんどん遠くまで進んでいきます。さらに、飛行機に乗り、船に乗り、外国へたどり着き、ロケットに乗り、なんと月にまで到達します。ぼうやが月で歩き出そうとしたとたん、わゴムが切れてポーンとはねて、ベッドに戻ってきました。 わゴムがどんどん伸びる様子をユーモラスな絵で描いています。文章は少ないですが、子どもたちは大騒ぎ。いっしょに楽しみながら読んでみてください。	5分
		大型絵本あり